

「我が街太田おもしろ探訪Ⅱ」

目次

1. テーマ
2. 本プロジェクトの目的
3. 年間の行動記録
4. 検討課題の絞込み
5. 選定理由
6. 基本理念
7. 基本コンセプト
8. 太田市のセントラルパーク・ネーミング
9. 今後の取り組みについて
10. 東武観光駅サテライトタクシーシステム
11. 参考文献
12. 担当教員による講評

経済学部 経営学科
平成 24 年度演習 I プロジェクトゼミ
指導教授 木村 和夫

参加学生

21012011 飯田 有毅
21012015 石崎 絵里香
21012022 井上 勇佑
21012027 宇賀神 紫苑
21012046 何 奎明
21012120 田高 嘉奈瑛
21012156 藤田 翔平
21012193 李 雪莱
21212904 金 慶植

- 1、 **テーマ**：「我が街太田おもしろ探訪Ⅱ」として、平成 22 年度ソフォモア木村ゼミのプロジェクト「同探訪Ⅰ」を下地に課題検討を深めることとした。
- 2、 **本プロジェクトの目的**：我が国の観光立国基本方針にある「住んでよし、訪れてよしの地域づくり」において「住んでよしの太田から、訪れてよしの太田」への展望実現を図る方策を探る。
- 3、 **年間の行動記録**：太田市の自然環境、歴史的、文化的観光資源の現状調査及び上記目的達成のための課題策定。
- 4、 **ゼミ進捗方法**：下記の手順により現調を実行した。

本プロジェクトの目的と、1年間の進め方について検討する：

第 1 回

本ゼミの目的は、観光ホスピタリティコース第一期生が本学の地元・太田市をモデル対象として、ビジネスの観点から多角的に探究することにより、各自がいかなる地域で仕事する場合でも、共通して対応できる「地域社会対応能力」を身に付けることにある。どのような仕事に就くにしても、商売をやるにしても、その街の人口構成、産業構造、人々の気質、生活スタイル、消費性向（消費型、貯蓄型等）、それらを形成する歴史的、文化的背景を理解、認識して取り組むことが、その地域の人々に快く受け入れられ、事業を成功させる基になる。本ゼミはそれらを把握する手法を体験的に学び、研究成果を発表することとする。

調査項目の整理、策定討議：

第 2 回

古代からの長い歴史・文化の豊かな資源を有する太田市においては調査対象を絞り込み、現場調査をもとに課題の検討を行い、提案レポートの作成、提案発表の作業工程を通して、考える力、まとめる力、発表力を養い身に付けることとする。

古代の太田エリア文化について磐下先生から講義：

第 3 回

古代史専門の本学講師磐下先生から、太田市の歴史・文化の特徴とそれが現代にどう繋がるのかを資料に基づきご講義頂き、本プロジェクト研究の基盤とする。

現地調査開始・スバルビジターセンター訪問調査：

第 4 回

太田の中心産業である自動車産業・富士重工スバルの生産拠点を見学することにより、一分間に一台の割合で生産される生産システムとその体制を目の当たりにして、それがもたらす経済的、社会的役割と効果を再認識する。

太田焼きそばのれん会参加店試食調査：

第 5 回

B 級グルメの全国大会においても、静岡県富士市、秋田県横手市と並び三

同麵の一角を成す太田焼きそばを試食調査し、お役立ちを検討する。

大光院と金山城跡ガイドンス施設見学：

第 6 回

徳川家康が、始祖と仰ぐ新田義重を弔うために、慶長 18 年（1613）に建立した大光院、開山には「子育て呑竜」として名高い呑竜上人が迎えられた。今も「呑竜様」として、多くの人々から親しまれている。（市指定文化財）

国際的にも有名な隈 研吾（くま けんご）氏設計である「金山ガイドンス施設」を金山城跡のみならず太田市全域の歴史観光案内の中心ガイドンス施設として機能する方法について検討する。

金山城跡見学：

第 7 回

金山城跡は東西約 3 km、南北約 4 km で高さ 235.8m の金山丘陵（「万葉集」東歌の新田山か）のほぼ全域にわたって築かれた戦国時代の山城です。文明元年（1469）に新田一族の岩松家純によって築かれ、その後、主は下剋上によって横瀬氏（後に由良氏）、そして小田原北条氏とかわり、北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされて金山城も廃城となった。山頂の実城域には新田神社が祀られ、大手虎口を中心に、南曲輪及び日ノ池・月ノ池などが復元整備され、市民の憩いの場・歴史学習の場として活用されている。

金山パーキングから、ぐんまこどもの国への歩経路調査：

第 8 回

金山は太田のシンボルとして、市民の心の拠り所となっている。豊かな自然を抱く金山で、四季折々の草花を楽しみ、野鳥の声に耳をかたむけながら、金山城の遺跡など先人の培った歴史と伝統に思いを馳せながら散策できる金山城跡とぐんまこどもの国を結ぶ歩経路は現在四本ある。頂上の新田神社と結ぶ 2 ルート、金山パーキングと結ぶ 2 ルートである。ハイキングコースとして中高年をはじめ子供会等まで利用されているが、未開拓である。太田のセントラルパークとしてのコース整備を提案する。

「道の駅おおた」見学：

第 9 回

国道 17 号上武道路に面する「道の駅おおた」。特色は、屋台形式で楽しく選んでお食事できるケータリングカービレッジ。太田産のやまといもをはじめ、豊富な新鮮野菜や民芸品・工芸品が並ぶ特産市場。また、長距離運転手も重宝する 24 時間利用可能な休憩スペースもある本施設の更なる活性化策を検討する。

新田荘歴史資料館・世良田東照宮見学：

第 10 回

東日本で最も古代文化の栄えたこの地には、多くの文化財が出土され、貴重な資料として資料館に公開されている。また、長楽寺住職天海僧正の発願により、日光から長楽寺境内に勧請された神社が東照宮である。三代将軍家光が日光東照宮を改築した際、徳川氏祖先の地・世良田に旧奥社の拝殿と宝塔が移築された。桃山時代の建築様式をよく遺す拝殿(国重文)、巢籠もりの鷹

が有名な本殿(国重文)をはじめ、近世初期の文化財が豊富。境内には、長楽寺に関わる中世遺構として法照禅師月船深海塔所並びに普光庵跡や真言院井戸などがある。

縁切寺満徳寺・資料館見学：

第 11 回

縁切寺とは、江戸時代に離婚を求めて駆け込んだ妻を救済して、夫との離婚を達成させてくれた尼寺のことで、「駆け込み寺」とも「駆け入り寺」ともいう。縁切寺は寺院のもつアジール性（避難所）の名残と考えられ、男子禁制の尼寺には、一般的に縁切寺的機能があったと思われる。

しかし、江戸時代中期以降、幕府から公認された縁切寺は、ここ上州（群馬県）の満徳寺と相州（神奈川県）鎌倉の東慶寺の世界に唯二つだけの駆け込み寺であった。満徳寺は千姫自身が入寺し、離婚後再婚した例にならって、両寺とも古くからの縁切寺法の特権が再確認されたと伝えられている。

生品神社・反町館跡見学：

第 12 回

元弘三年（1333 年）五月八日、新田義貞が挙兵した地と伝えられている生品神社。弟脇屋義助をはじめ集結した新田一族はおよそ百五十騎。正面にある大鳥居の左手には挙兵の際に陣をとったとされる床几塚、神社境内の手前には旗挙げ塚、社殿前には軍旗を挙げたといわれる朽ち折れた櫓のご神木が保存されている。毎年五月八日には氏子たちにより鐙矢祭が行われ、勇壮な一族の姿が再現される。

現在も堀に水をたたえ、かつての館の面影を残す反町館跡は、新田荘における中世の代表的な平城。義貞が成人後、居住したとの説があり、また市野井氏あるいは大館氏の館跡ともいわれている。現在では、照明寺の境内となり、反町薬師として毎年一月四日には大勢の人出で賑わう。本堂裏には、義貞の逸話を伝える「鳴かずの池」と室町時代の造園とされる日本庭園がある。

観光対象駅(東武線)からのサテライトタクシーシステムの検討：

第 13 回

増加する中高年世代等、マイカー以外の交通手段（東武鉄道）で太田の歴史観光施設を訪れるお客様に便利なタクシーシステムを企画し、地元タクシー協会等に提案、協議し、実行プランを策定する。

第 14 回 資料分類整理・・・項目別整理分析検討編集

5、 検討課題の絞り込み：現調の結果本年度の検討課題を次の二点に絞ることとした。

- ① 太田市のほぼ中央に位置し、歴史的にも太田のシンボル・金山城跡地域の東西 2 公園とぐんまこどもの国の統合プランによる太田のセントラルパークづくり。
- ② 東武電車で太田の観光対象施設を訪れる人々への便利なタクシーシステムの構築

6、 **選定理由**：太田市（175.66 k m²）は緑の金山（標高 239m）、八王子山の丘陵、利根・渡良瀬川の豊かな清流、広大で肥沃な平地など自然に恵まれ、道路、鉄道等交通アクセスも整い

- ・歴史的には岩宿遺跡の発掘で明らかになったように、約三万年前の旧石器時代からヒトが住み、奈良・平安時代の高速道路ともいべき東山道（幅約 10m,両脇に側溝を備えた直線道路）と東海道を結ぶ起点でもある太田は、太平記・建武の中興・新田義貞（源 義貞）生誕の地であり、また徳川家発祥の地でもあり、調査対象としても明らかかなように未調査の古墳群を含めて数多くの歴史的施設が散在する知られざる観光資源を有する街でもあります。
- ・工業出荷額では富士重工〈スバル〉を中心とする七つの工業団地で約二兆円と北関東三県でもトップの座を占め
- ・農業生産額は前橋に次いで第二位
- ・商業は年間商品販売額が約 6,600 億円で県下第三位
- ・基盤となる人口は高崎市、前橋市に次いで第三位の 217 千人「住んでよし」の恵まれた地域であります。

しかしながら、「訪れてよしの太田」のイメージはどうかと申せば、中高年層には太田駅南側の夜の歓楽街の太田の印象が強く、上記の歴史文化の街としての認識は極めて薄く、また市民自体にも工・農・商のバランスのとれた産業構造を持ち、歴史文化の厚い誇りうる街としての意識がいまだに低い現状にあります。

そこで、対外的にも、対内的にも太田のイメージチェンジアップを行うにはどうすべきかを検討の結果、街の中央に 100ha もの広大な自然、山城文化のある緑あふれる公園を有する街は全国的にも極めて稀であるところから、市の特徴をここに絞り込み「100ha のセントラルパークを持つ太田」を謳いあげることが最も効果ありと判断、企画に当り先ず基本理念を次のように決めました。

6、 **基本理念**

- ・太田市が目指す「品格ある生活文化都市」になくってはならない、自然・歴史・文化の融合環境整備を目指す。
- ・「住んでよし、訪れてよし」の太田のテーマパーク創りを目指す。
- ・老若男女が、我が街の誇りとなるプランとする。
- ・県内・外の人々が何度も訪れてみたくなるテーマパークとする。
- ・企画に当っては行政の枠にとらわれないこととする。

7、 **基本コンセプト**

太田市のほぼ中心部に位置する金山エリアは、現在、西山公園、東山公園、さらに、金山総合公園・ぐんまこどもの国、として三つに分かれています。この広大な金山エリアを、自然と歴史文化豊かな環境を有する太田のセントラルパークとして一体化するイメージアップを行い、市民の誇りある親しみ深い公園とする。

8、 太田市のセントラルパーク・ネーミング：

「太田のセントラルパーク
歴史に触れ、自然と遊び、文化を学ぶ

(仮称) 太田 100 金山城公園」

太田 100 と銘打った理由は現在ある三つの公園面積が【西山公園 45.4ha,東山公園 37.7ha,こどもの国 18.7ha,合計 101.8ha(東京ドーム約 22 個分)】あり、約 100ha であるところから、覚え易い名称としたい狙いと、日本 100 名城に入る歴史ある「金山城跡」という名称を生かし、市民の誇り得る公園として命名してはどうかというものです。

参考までに：

- ・大阪城公園 105.6ha
- ・熊本城公園 98ha
- ・東京ディズニーリゾート 100ha
- ・皇居（公園含む）142ha
- ・NY セントラルパーク 341ha

9、 今後の取り組みについて

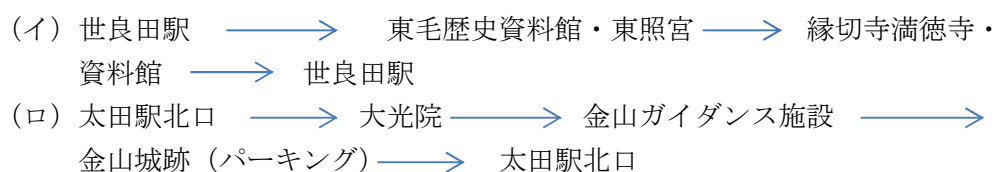
- ① 現在同エリアには7本のハイキングコースがあり、8本目を工事中であるが途中で遺跡が出たために中止されている。そのうち四本が金山城跡のある西山公園とこどもの国を結んでいるがそれらの整備が望ましい。
- ② 国際的にも有名な隈 研吾（くま けんご）氏設計であるところから、全国の大学等から建築設計関係者が大勢訪れている「金山ガイドンス施設」を金山城跡のみならず太田市全域の歴史観光案内の中心ガイドンス施設として機能するようにする。
- ③ 仮称「太田100金山城公園」を太田のセントラルパークとして、現状施設の見直し整備を行い、PRを徹底する。

10、 東武観光駅サテライトタクシーシステム（試案段階である）

増加する中高年世代等、マイカー以外の交通手段（東武鉄道）で太田の歴史観光施設を訪れるお客様に便利なタクシーシステムを企画し、地元タクシー協会等に提案、協議し、実行プランを策定する。

- 気軽に利用可能な適正料金の検討
- 主要（太田市内）観光施設に近い東武線駅に金、土、日、祭日、必ず1台待機する。
- または、当日でも利用者の携帯からの連絡により、サテライト該当駅に電車到着時に待機する。
- 定員までの相乗り制とする。
- 但し、1区間1人当り500円を限度とする。
- 1か所当り待ち時間（見学等）40分まで無料とする。
- 三枚橋駅等駅前にタクシー待機場のない駅前については東武電鉄にスペース確保をお願いする。

●観光最寄駅からのサテライトタクシー参考例：



参考文献

- 太田市HP

<http://www.city.ota.gunma.jp/>

- 太田市教育委員会文化財課HP

<http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/>

- 金山総合公園 ぐんまこどもの国HP

<http://www.go2park.net/parks/kodomonokuni.html>

- 歴史資料：指導・監修・関東学園大学 経済学部 講師 磐下 徹

参考資料

- 平成25年1月23日学内、プロジェクト発表パワーポイントコピー
- 太田市観光ガイドパンフレット1部

担当教員による講評

観光ホスピタリティコース第一期生の演習Ⅰとして、上記テーマに基づき、自然、歴史文化、産業面において豊かで恵まれた立地・太田市を「住んでよしの太田」から観光的視点にて「訪れてよしの太田」にする方策を多くの現場調査を踏まえて検討の結果、前記の結論を導き出すことが出来た。これは太田市の魅力をシンプルにしかも力強く印象付ける効果的な具体策であり、太田市に提案すべき事案と思料される。プロジェクト研究の成果を多としたい。また試案段階のサテライトタクシーシステムについては引き続き成案を得るよう継続研究を期待したい。